全教神協広報
第一〇八号
全国教育関係神職協議会
〒一五一－〇〇五三
東京都渋谷区代々木一－一－二
神社本庁内
電話　〇三－三三七九－八〇一一
FAX　〇三－三三七九－八一九九
題字　諏訪秀一氏

実践の積み重ねを

全国教育関係神職協議会 副会長　吉田　道明

父たる先代宮司の帰幽により、市役所職員から急遽宮司を襲った先輩神職の話である。

宮司としてご奉仕を始めてみると、それまで気づかなかった社殿の傷みが目につきはじめたそうだ。一念発起して神社総代と相談し、社殿の造替に取りかかった。しかしいざ事を始めてみると、数え切れないほどの困難が待ち受けていた。氏子の負担をはじめとする資金の問題、境内地の確定ほか法的な問題、宮大工などの技術的な問題等々、何度も投げ出そうと思ったという。それでも思いがけない奉賛等の幸運にも恵まれ、結局は成し遂げることができたとのこと。私も参拝して御社殿を拝観したが、地方の神社としてはまことに荘厳な御社殿である。このことをお話しくださった中でひどく私の心を打ったのは、念願実現のために「気違いになる」という一言である。言い換えれば「鬼になる」ということだろう。いまも私の耳から離れない。

さて私事であるが、全教神協に加えていただき中央研修会で有益な御講演を拝聴したり、分散会で意見交換や情報交換するなど、さまざまな活動をしてきた。ところがふと、「いったいどれほどわがこととしているのか」と自問するようになった。活動方針の理解や地区研修会への参加によって自分の足元を顧みると、果たして「鬼」になるほどの気迫はあるのだろうかと反省する。その場その場のおざなりなことをしてはいないだろうか。神職として、また地域社会の役割として、はたまた元教員として、何ほどのことができているだろうか。わけても、全教神協の一員として他の神職の方々との実践の違いがあきらかにできているだろうか。毎日誠実に社務に励んでいたらそれなりに夕日は沈む。神社新報を丹念に読んでいたら必要最小限の情報は得られる。しかしそれだけでいいのか。

全国的・全県的などという大きなレベルでなくて少しもかまわないが、身近な神職の方々との違いを明らかにできるような実践、それもわが組織の一員としての実践を大切にしたい。神社界やわが全教神協の現状と今後に思いをいたすとき、それぞれの地域で活動方針に沿った実践を積み重ねることが必要なのではないか。

「鬼」になろう。

そして全国大会・中央研修会は、その実践に学ぶとともに自分の実践の軌道修正の機会としたいと願ってやまない。